

(対象事業：地域連携強化事業、地域文化資源整備活用事業、ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：「美術館をひろげる ふかめる」

事業者名：コレクション／コネクション展実行委員会

住所：福岡市中央区大濠公園 1 番 6 号

TEL：092-714-6051

FAX：092-714-6145

HPアドレス：<http://www.fukuoka-art-museum.jp/>

連携事業者名：福岡市中学校美術教育研究会，学校と社会をつなぐエイジェンシー，福岡アジア美術館，福岡県立美術館，九州大学産学連携センターデザイン総合部門，九州産業大学芸術学部

会場：福岡市美術館

事業期間：平成21年6月19日（金）～ 平成22年1月22日（金）



1. 館の使命と本事業の関係

本事業は、福岡市美術館開館 30 周年を記念して企画される大所蔵品展「コレクション／コネクション」展に付随するもので、美術館活動と所蔵品とを一般市民・来館者へこれまで以上に普及させ、将来の館活動の指標とすることを目的としている。この目的は、市民への所蔵品のより深い鑑賞を促すだけでなく、特に生徒・学生を中心に、企画や作品創造への参加を促進する方向性を持つ。若い観客の参加により、市民文化の将来的な発展が見込まれる。この点は館の使命に充分合致するものである。また、今回のこの取り組みは、館所蔵品および館の建物を核としたものであり、その意味で通常的美術館活動を敷衍したものであるが、それゆえに周辺美術館への影響も期待され、当館が西日本における美術文化の拠点としての役割を果たしていることを改めて理解いただけるものと思われる。

2. 企画内容

①事業目的

福岡市美術館開館30周年を記念した大所蔵品展「コレクション／コネクション」に関連する事業。現代作家による、館外に広がるパフォーマンスやワークショップや、市内中学校と連携した所蔵品を活用した長期間のワークショップを通して、所蔵作品への理解を深める事業を開催。従来のコレクション展示とは異なった方法で所蔵品および館活動の普及をはかることを目的とする。

②事業概要

【美術館をひろげる】

- 美術家と出会う：Meet The Artists (MTA)
 - ・折元立身「Finger Dolls (指人形)」、「パン人間」
 - ・さとうりさ「Risa Campaign vol.11 [working, now]」
- 灯明ウォッチング in 福岡市美術館

【美術館をふかめる】

- ジュニアキュレーター見参！
- 「キッズコーナー 森のたね」

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

【美術館をひろげる】

○美術家と出会う：Meet The Artists (MTA)

主にパフォーマンス、ワークショップを通じて、美術家と観客とが直にふれあい、さらにその作品および上演に参加する内容。所蔵品展示だけでは十分に伝えにくい美術の「ライブ感覚」、今まさに身体を通して生まれる表現への理解を促し、美術表現の幅広さを伝えた。

・折元立身

8月8日「Finger Dolls (指人形)」(当館1階ロビー)

8月22日「パン人間」(市内繁華街一当館)



指人形を上演する折元



繁華街での「パン人間」

・さとうりさ

9月19日「Risa Campaign vol.11 [working, now]」

(当館、福岡アジア美術館、福岡県立美術館を1日で巡回展示)



福岡市美術館での展示



福岡アジア美術館での展示



福岡県立美術館での展示

○灯明ウォッチング in 福岡市美術館 9月13日(12日は雨天のため順延)

灯明ウォッチングを当館で開催。夜になると美術館の建物および周囲の街路が浮かび上がるように灯明を配置した。来場者向けに灯明制作ワークショップを開催した。



灯明ウォッチングの様子(屋上から撮影)

【美術館をふかめる】

○ジュニアキュレーター見参！ 6月20日～8月8日

中学美術教員による組織「福岡市中学校美術教育研究会（中美研）」と共催。当館企画展「コレクション／コネクション」展の展示の一部を、中学生たちに実際に担当してもらい、展示立案の作業を通して福岡市美術館所蔵品に関する理解を深めた。展示後は、彼らによるギャラリートークを開催した。



展示案を熟考中の生徒たち



完成した展覧会

○「キッズコーナー 森のたね」 8月8日～9月27日

未就学児を連れた来場者のために、展示室の一角を使って子どもも親しめるデザインと機能を持った空間「キッズコーナー 森のたね」を設営。親子連れの来場者のアクセスを向上させた。会期中に本コーナー内で2回ワークショップを開催した。



キッズコーナー全景

（２）参加者の数

参加者人数 延べ 271 人

内 訳：折元「パン人間」＝学生参加者 19 人

灯明ウォッチング＝一般ボランティア参加者 17 人

ワークショップ参加者（主に親子）40 組（約 80 人）

ジュニアキュレーター＝参加中学生 115 人

キッズ＝ワークショップ参加者（主に親子）20 組（約 40 人）

（３）事業により作成した印刷物等

チラシ（A4）＝2 万枚 チラシ（A5）＝10,000 枚

ジュニアキュレーター作品カード＝1,200 枚

案内マップ（A3）＝12,000 枚 報告書（DVD 付）＝500 部

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

- ・西日本新聞 平成 21 年 8 月 15 日（朝刊） 都市圏
鷺頭桂（福岡市美術館学芸員）「ミュージアムめぐり（60）学芸員のいちおし」
- ・同 平成 21 年 8 月 21 日（朝刊）
正路佐知子（同）「美術を広げる 深める 福岡市美術館の 30 年」（上）
- ・同 平成 21 年 8 月 22 日（朝刊）
山口洋三（同）「美術を広げる 深める 福岡市美術館の 30 年」（中）
- ・同 平成 21 年 8 月 23 日（朝刊）
岩永悦子（同）「美術を広げる 深める 福岡市美術館の 30 年」（下）
- ・同 平成 21 年 8 月 23 日（朝刊） 「それゆけパン人間 天神で芸術家ら行進」
- ・長崎新聞 平成 21 年 8 月 29 日 （ふ）「見てきました」
- ・西日本新聞 平成 21 年 9 月 2 日（朝刊） 都市圏
松尾孝司「「お宝」展示に工夫随所 前衛作品と古美術“同居” 中学生の視点で作品選択」
- ・毎日新聞（西部版） 平成 21 年 9 月 7 日（朝刊） 文化
渡辺亮一「型破りな発想／組み合わせの妙」
- ・西日本新聞 平成 21 年 9 月 10 日（朝刊） 学芸・芸術
藤原賢吾「“美術のるつぼ”で再発見」

○テレビ、関連誌等

（雑誌）シティ情報ふくおか 平成 21 年 8 月 28 日号 No.692 p.68

（インターネットマガジン）アーツスケープ

平成 21 年 8 月 15 日号 山口洋三 学芸員レポート

http://artscape.jp/report/curator/1207419_1634.html

平成 21 年 10 月 15 日号坂本顕子 学芸員レポート

http://artscape.jp/report/curator/1209427_1634.html

平成 21 年 11 月 15 日号 山口洋三 学芸員レポート

http://artscape.jp/report/curator/1210530_1634.html

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本事業開催にあたり、福岡市中学校美術教育研究会ほか数多くの機関、個人との連携が不可欠であったが、今回の取り組みで、この関係を深めることが出来た。また、普段は静かな館内が、本事業により活気が生まれた。

コレクション展とは元来地味な物であるが、動的な要素を加味したことにより、祝祭的なムードを高めることに成功した。キッズコーナーは親子連れに好評だった。

美術館の今後の運営にも変化が現れてきた。

しかし、広報面では、館内の態勢の問題もあり、今後の課題となった。また、灯明ウォッチングでは、イベント自体は成功裏に終わったが、地域との事前折衝が不足しており、美術館周辺住民との連携への取り組みには課題が残った。